

第二回

津花之能

狂言

文蔵

山本東次郎

仕舞

井筒

友枝昭世

おはなし

梅内美華子

能
邯鄲

友枝真也



平成29年7月16日(日) 午後2時開演／午後1時開場
十四世喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎4-6-9 電話 03-3491-8813

※ 病気その他やむをえない事情で出演者が変更になることがあります。

能 邯鄲

アイ・邯鄲宿の女主人

山本泰太郎

シテ・廬生 友枝 真也

子方・舞人 大島 伊織

ワキ・勅使 宝生 欣哉

大鼓 柿原 光博 太鼓 小寺 真佐人
小鼓 成田 達志 笛 一噌 隆之

後見 塩津 哲生
大島 輝久

地謡 佐々木 多門 狩野 了一
内田 成信 中村 邦生
友枝 雄人 友枝 昭世
金子 敬一郎 長島 茂

仕舞 井筒

友枝 昭世

狂言 文蔵

シテ主

山本東次郎

アト・太郎冠者

山本 則孝

おはなし

梅内美華子

終了予定 五時半頃



友枝 真也

1969年 東京生まれ。上智大学法学部法律学科卒業。故友枝喜久夫の孫。喜多流十五世宗家故喜多実入門。友枝昭世、塩津哲生に師事。1972年 仕舞「月宮殿」にて初舞台。1984年「経政」にて初シテ、2004年「猩々乱」2008年「道成寺」2011年「石橋(赤獅子)」を披く。「洩花之能」主宰。「燦ノ会」同人。2014年 重要無形文化財総合指定。



山本東次郎

1937年 東京生まれ。三世山本東次郎の長男。1961年に國學院大學日本文学科卒業。1942年に山本会「痿痺」のシテで初舞台。1952年「三番三」、1958年「釣狐」、1971年「花子」を披く。1972年に「獅子掣」を復曲。四世山本東次郎を襲名。1992年 芸術選奨文部大臣賞。1994年 観世寿夫記念法政大学能楽賞。1998年に紫綬褒章。他受賞多数。2012年 重要無形文化財各個人認定(人間国宝)。



梅内美華子

1970年青森県生まれ。歌人。馬場あき子に師事、歌誌「かりん」編集委員。同志社大学文学部卒。1991年角川短歌賞受賞、2001年「若月祭(みかづきさい)」で現代短歌新人賞、2012年「エクウス」で芸術選奨文部科学大臣新人賞、葛原妙子賞、短歌研究賞。2013年青森県褒賞。2016年青森県文化賞。歌集歌書『真珠層』『現代歌枕 歌が生まれる場所』等。

文蔵 (ぶんぞう)

あらすじ

暇乞い無く京都に出掛けた太郎冠者を、主は一度はとがめますが、京都の話を知りたいがために太郎冠者を許します。太郎冠者は主の伯父のもとで何やら御馳走になってきたというものの、肝心な食べ物の名前が思い出せません。じつは太郎冠者が食べたものは温糟粥(うんぞうがゆ)というものでしたが、どうしてもそれを知りたい主はあの手この手で思い出させようとしつづけます。ついに太郎冠者が主が読む本の中にあるものを食べたというので、主は源平盛衰記の「石橋山の合戦」を語り始めます……。

邯鄲 (かんとん)

蜀の国の廬生という者が楚の国の羊飛山(ようひさん)に高德の僧がいて聞いて、その教えを受けようと訪ねて行く途中、邯鄲の里に着きます。宿の主の貸してくれた「邯鄲の枕」に就いて眠りにつくと、楚国の勅使がやってきて、天子の位に昇り五十年に及ぶ栄耀華栄の限りを尽くすと見たのは粟飯が炊けるまでの間に見た短い夢に過ぎませんでした。廬生は人間一生の盛衰に悟りを得て再び故郷へ帰って行くのでした。日本でも「邯鄲の枕」としてよく知られた中国の故事ですが、元々の物語をやや簡略にアレンジし、能ならではの舞台展開は見るものを飽きさせません。

■予約開始

2017年4月16日(日) 10:00am~

■チケットのご案内

- S席 8000円
- A席 6000円
- B席 5000円
- 二階自由席 4000円

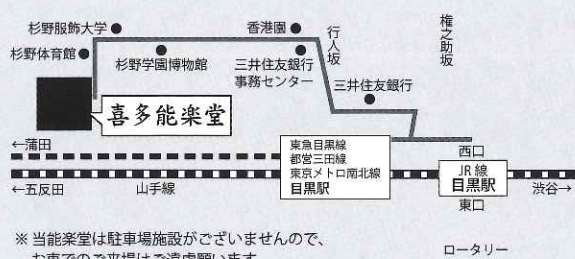
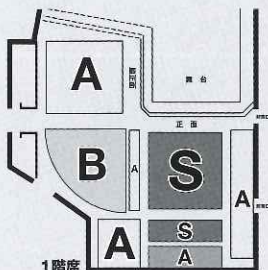
学生の方、中学生以下の方を御同伴の方には割引があります。お問い合わせください。

友枝家公式ウェブサイト

「友枝家の能」からもお申込み・お問合せいただけます。

<http://tomoeda-kai.com/>

※公演中止の場合を除き、ご購入後のチケットの払い戻し、変更、再発行はいたしません。



※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車のご来場はご遠慮願います。

■お申込み・お問合せ

TEL:03-3491-8813

公益財団法人 十四世六平太記念財団

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

【交通案内】

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分